図書館だより

武雄高等学校　図書指導部
令和 2 年 1 月 27 日発行

新年がスタートしました♪今年も武高図書館をよろしくお願いします(*^^*)みなさんにとって、2020 年が素敵な 1 年になりますように…☆

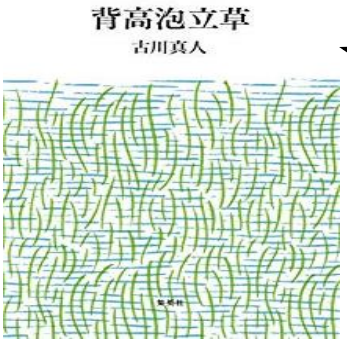
❁第 162 回　芥川賞・直木賞の受賞作発表❁

今月の 15 日に、第 162 回芥川賞と直木賞の受賞作が発表されました！受賞作は図書館で購入予定なので、どうぞお楽しみに（^^♪

◇芥川賞受賞作◇

『背高泡立草』

古川　真人【著】　（集英社）



草は刈らねばならない。そこに埋もれているのは、納屋だけではないから。

島にはいつの時代も、海を出ていく者と海からやってくる者があった。長崎の島に生きた一族の記憶と歴史の物語。

★現在の長崎の物語に、過去の長崎のエピソードが重層的に織り込まれており、九州の方言も効果的に使っている。また、長崎は著者の母親の出身地である。

＊著者プロフィール＊

1988 年福岡市中央区生まれ。高校時代から小説を書き始めた。国学院大学中退後、2016 年に「縫わねばならん」で新潮新人賞を受賞してデビュー。同作を含めて芥川賞候補作が続き、4 度目の候補作となった今作で芥川賞を受賞。

◇直木賞受賞作◇

『熱源』

川越　宗一【著】　（文藝春秋）

北海道のさらに北に浮かぶ島、樺太（サハリン）。人を拒むような極寒の地で、時代に翻弄されながら、それでも生きていくための「熱」を追い求める人々がいた。

明治維新後、樺太のアイヌに何が起こっていたのか。見たことのない感情に心を揺り動かされる、圧巻の歴史小説。

★言語学者の金田一京助、ポーランドの民俗学者ピウスツキら実在の人物が登場し、文明がもたらす理不尽な側面を浮き彫りにする。

＊著者プロフィール＊

1978 年、大阪市生まれ。龍谷大学文学部史学科中退。2018 年「天地燦たり」で松本清張賞を受賞しデビュー。2019 年、2 作目となる今作が山田風太郎賞の候補に入り、本屋が選ぶ時代小説大賞を受賞。また、今作は初めての直木賞候補作となった。

＊大学入試出典コーナーリニューアル＊

この度、大学入試出典コーナーをリニューアルしました(^^)/以前はセンター試験の国語（現代文）の問題で出された作品を置いていましたが、今回からは国公立大学二次試験（国語・現代文）の問題で出された作品を展示しています＾＾国公立大学のラインナップは、東京大学・京都大学・北海道大学・東北大学・九州大学・大阪大学です！これらの大学のなかに自分の志望大学がある人や、興味がある人はぜひ借りてみてください☆彡

≪新着図書案内≫

『デッドライン』千葉　雅也【著】（新潮社）

☆第 162 回　芥川賞候補作☆

修士論文のデッドラインが迫るなか、「動物になること」と「女性になること」の線上で煩悶する大学院生の「僕」。高校以来の親友との夜のドライブ、家族への愛情とわだかまり、東西思想の淵を渡る恩師と若き学徒たる友人たち、そして、闇の中を回遊する魚のような男たちとの行きずりの出会い―。

『百器徒然袋～雨～』京極　夏彦【著】（講談社）

☆12 月号で紹介された『百器徒然袋～風～』もあわせてどうぞ！

「推理はしないんです。彼は。」知人・大河内の奇妙な言葉にひかれて神保町の薔薇十字探偵社を訪れた「僕」。気がつけば依頼人の自分まで関口、益田、今川、伊佐間同様“名探偵”榎木津礼二郎の“下僕”となっていた…。

『ネオサピエンス』岡田　尊司【著】（文藝春秋）

IT 革命は、心の絆を求めない新人類を産んだ。最前線の臨床医が、最先端の進化論と出会ったとき―30 年間の臨床と研究データが語る驚愕の未来レポート。

『ひきこもる女性たち』池上　正樹【著】（KK ベストセラーズ）

ひきこもり問題を追い続けてきた著者が実感した、危機的な日本の大問題。統計から消され、「弱者」にすらなれない―深刻化する「見えない」女性の実態。今まで誰も指摘しなかった、潜在する「女性」のひきこもり。

このほかにもたくさんの新着図書がありますので、ぜひ図書館まで☆